

迎古夢旅 4600 : **イベリア半島・赤い屋根** P139



当初、ガス？が出て視界不良。快方に向かう天気予報は確認している。

今日は、きっと、いい出会いがあるだろう。

このイベリア半島訪問、この時期、夜明けは午前5時、日没は、午後10時。余裕がある。

しかし、こうした広々とした状況の中では、距離感の錯覚が、時にある。

まして、ひとり旅。誰にも頼れない。

もし、確かなものがあるとしたら、体力始め、積み重ねてきた自分自身。

もちろん、最小限の資料や食料類は持参。

同時に、他の大陸のように、危険な動物はいないという安心感、景観に誘われて先へ、先へ。

道に迷うと恐ろしい。油断大敵。しかし、私には、至福の時間。

最悪を覚悟して、この旅をつづけている。

